

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

| | |
|------|---|
| 病院長名 | 佐藤 公治 |
| 所在地 | 〒466-8650 愛知県名古屋市昭和区妙見町2番地の9 |
| 交通案内 | 地下鉄：名城線八事日本赤十字社駅下車 2番出口すぐ バス：市バス妙見町行 八事日本赤十字社病院停下車 |

□ 病院の特徴

当院は、歴代院長が首尾一貫した方針で病院の進むべき方向性を定め、歴史と伝統である救急医療、高度医療、災害救護と国際救援、周産期医療、医療連携、研修医教育などを推進することによって現在の病院にまで発展してきました。

特に“研修医は病院発展の原動力”との考えのもと、研修医教育には最重点を置き研修医教育指導体制の充実を図ってきました。

□ 研修プログラムの特徴

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科領域専門研修プログラムは、愛知県名古屋市東部医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を基幹施設として、愛知県名古屋市東部医療圏、近隣医療圏および北海道、大阪府、宮城県、岐阜県、三重県にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。

また、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、56疾患群、160症例以上を症例登録ができるようにします。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できるようにします。

■ 研修期間

原則、基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間

■ 内科専攻医研修（モデル）

①赤十字連携コース、②名古屋大学連携コース、③名古屋市立大学連携コース、④愛知医科大学連携コース、⑤藤田医科大学連携コース⑥自治医科大学連携コース の多様性のあるキャリアパスから選択

■ 研修コース（①赤十字連携コースの例）

<専門研修1年目>

循環器、呼吸器、消化器、神経、救急、内分泌

<専門研修2年目>

腎臓、血液、総合内科、診療所、地域

<専門研修3年目>

地域、総合内科、院外選択、院内選択



□ 主な連携施設

石巻赤十字病院、清水赤十字病院、高山赤十字病院、広島赤十字・原爆病院、横浜市立みなと赤十字病院、名古屋大学医学部附属病院、名古屋掖済会病院、愛知県がんセンター、総合犬山中央病院、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院、久美愛厚生病院、名古屋市立大学病院、名古屋市立大学附属東部医療センター、愛知医科大学病院、新城市民病院、中部国際医療センター、愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院、国立循環器病研究センター、市立四日市病院、安城更生病院、大垣市民病院、東栄町国民健康保険東栄診療所、津島市民病院、春日井市民病院、藤田医科大学病院、県立多治見病院（2024年度開始プログラムから予定）

□ メッセージ

糖尿病・内分泌内科副部長/糖尿病・内分泌内科 東 慶成

「自ら考え、自ら動けるドクターを育てたい」

当院の内科系診療科には、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、総合内科の

8つの専門内科があり、それぞれが高度先進医療に取り組んでるのが1番の特徴です。

教育に関する基本的なスタンスは幅広い知識を身に付けてもらう事で、若いドクターにはできるだけ多くの選択肢を与えたいと考えています。内科での研修はまさにその考えを体現したものであり、様々な症例を経験する中で、広く深く学んでもらえると思います。

プログラムを通じて専攻医には、ドクターとして必要な基本的な技術を取得するとともに、さらにそのスキルを伸ばしてほしいと考えています。しかし、それ以上に期待しているのが、積極的に自分で考え自分で動けるドクターに育ててもらうことです。一刻を争う現場では、指示を待っているだけのドクターではなく、自発的に動けるドクターこそが必要とされます。幸いにも当院にはお手本となる優秀な先輩ドクターが沢山います。先輩たちの仕事に取り組む姿勢を見て学んでいただければと思います。



□ 募集要項

| | |
|---------|--|
| ・採用予定人数 | 10人 |
| ・給与/月額 | 3年目 平均約750,000円/月 |
| ・当直回数/月 | 診療科によって異なる |
| ・当直料/回 | 診療科によって異なる |
| ・応募連絡先 | 担当者 教育研修管理課 電話番号 052-832-1121 Eメール education@nagoya2.jrc.or.jp |